

シーン5

「ああっ♡ もう、始まっちゃってたのねえ♡」

「砦の広場で盛っちゃってるなんて…… 結局はみんな気持ちいいことに抗えないのよ……
♡ それに、魔物と人間の乱交なんて、なかなか見れるものじゃないからねえ♡ ふふふ
ふつ♡」

「ん？ …… 司祭君？ どうしたの？ ちょっとビックリしてるみたいだけど……」

「ああ……♡ なるほど、魔物に堕ちた人が居ることに驚いてるんだねえ…… ふふつ♡」
「キミと同じように、墮ちちゃった人は実は何人か居るんだよ♡」

「ふふつ♡ こっそり仲間を増やしてたんだあ♡」

「もう半分以上が魔物になっちゃってるから、なにも隠す必要はないしね……♡」

「みんなで神に感謝するミサを開いてるの♡ ほら見て、すごく幸せそうでしょう？ ふ
ふふつ♡」

「司祭君も、あたしのふたなりチンポが目的で、部屋から出てきたんでしょ？」

「そろそろ迎えに行こうと思つてたんだけど…… 自分から来てくれて嬉しいな♡」

「オナホとしての自覚が出てきたみたいで、あたしも嬉しいよ…… ふふつ♡ ちゅつ♡」

「ほら、司祭君♡ あたしのふたなりチンポにキスしてよ♡」

「さっきまでジユボジユボしてたから、すっごく精液くさいかもしけないけど……♡」

「キミ、そういうのも好きでしょ？ ふふつ♡」

「あたしのおちんぽ、キミにチュッチュってされて、ペロペロしてもらうの、すごく好きなんだ♡」

「いっぱいキミのこと、可愛がつてあげるからさ…… ふふつ♡」

……んつ♥はあ？……いいね♥さすがだよ、司祭君♥んうつ♥ふふつ♥あります
がと♥司祭君の勃起したおちんちん♥あたしのふたなりチンポとくつつけて、オナ
ニーしようか♥んふつ♥」

重ねてから又チヨ又チヨにしながらのオナニー!……♥ 絶対気持ちいいって♥
「……んつ♥ ああつ♥ いいねえつ♥ 思ったとおり……んうつ♥」
ね?」

「……すっごく、熱いねえ……んっ♡ はあっ……はあっ……んあ……♡」

「こうやつて、んつ
両手を重ねながらあ、んあつ
お祈りするみたいにオナ

するのねっ
「♡

三才圖會

「んうつ
あつ
んぐつ
これつ
いいつ
いいよおつ
はあはあ、ん

んう ふ 「♡」

「すっごく、気持ちいい……んあつ♡ はあつ、はあつ、んうつ♡」

「キミのおちんちんがビクンビクンってしてると、全部う、伝わってきてるよお♡
「んあつシコシコするのつ、氣等ういひつ、氣等ういひつ、一人でするオナ」

と全然違うの♡」

「はあっ、んっ♡ ああっ♡ ぎゅうって、しながらシゴくの、気持ちいいっ♡ はあ

「一人でしてるときは、強めにつ、んあつ[♥] ガンガンシゴいてつ、シゴいてつ、やつと

「… ひうつ♡」

「司祭君のおちんちんも一緒に、んっ♡ 巻き込んでオナニーしてると、すっごく気持ちも高ぶっちゃつてるよお♡」

「ははは、んんっ♡ あっ、ああっ、おちんぽ重ねてするオナニー、気持ちいいっ♡ ううつ♡」

「司祭君は、どうかなあ？ んあっ♡ ははは、んんっ♡ あたしの、ふたなりチンポ……♡」

「一緒にシゴかれるの、気持ちいい？ 気持ちいいよね？ ふふふ♡」

「腰、浮いちゃつてるもんね♡ あはっ♡」

「一人でしてたときと、やっぱり違うんだねえ♡ キミのおちんちんも、喜んでるみたいだし……んあつ♡」

「はあつ……はあつ……ううつ♡ んんうつ♡」

「キミのおちんちん、ずっとビクビクしつばなしだね♡ はあ、はあ、んうつ♡」

「シゴかれるの、気持ちいいんだねつ♡ んうつ♡ はあ、んっ♡ ああつ♡」

「もう、イっちゃいそう？ ふふつ♡」

「なら、神に祈りながら……一緒にイこ？ ね？ んっ♡ はははあつ、んんうつ♡」

「神様あ♡ ありがとうございます……んっ、くつ、ううつ……はあ、はあ、はあ、んんっ♡」

「あたしに素敵なおちんぽをくださったおかげで、んっ♡ みんなを幸せに導くことができそうです……くつ、んんうつ♡」

「はあ、はあ、はあ……んあつ♡ 祝福してくださり、ありがとうございますううつ♡」

「射精する喜びをお♡ 与えてくださいりつ♡ んぐっ♡ ありつ、がとお、びざいますうつ♡ んんううつ♡」

「ああつ、もうつ、いくつ……、イツちゃんやううつ、んんつ、あつ、あつ、ああつ、

「ああっ♡ んうっ♡ あつ、ああつ……はあつ、はあつ、あつ、んつ♡ あうつ……
はあつ、はあつ、はあつ、くつ、んうつ……」
「はあ、はあ、はあ、ふうつ……ふふつ♡ 一緒に、イケたね……♡ ちゅつ♡ んつ……」
「はあ……」

「司祭君……一回出したやつたくらいで、終わる気なんて、もちろんないよね？」
「ふふっ♡ キミは、あたしのオナホなんだから、次は、どうすればいいか、わかつてゐるよね？♡」

「……ふふっ♥ あはあ♥ はははははははは♥」「
「そうだよっ♥ 司祭君っ♥ キミは本当に素直でいい子だよお♥」「

「お尻をほじられたいんだね♡ すぐよく見えるよ♡」

「ふたなりチンポ……」
すぐに入れて欲しいんだなー

「あたし、うやん見えるよう……四つん這いこなつて、アナレをクペクペさがるはね」とくるよ[心]

んて♡」

「オナホ穴としては大正解つ♥ そんな、いい子なオナホ穴には、ちゃんと褒美をあげないとね?……」

「……キミのアナルに、あたしのおちんぽを、一気に入れてあげるねえ♡」

「んんんんんうううううつ！ あつ♡ んんつ♡ はあ？……はあ？……んあつ♡」

「やつぱりつ……♡ 司祭君のつ♡ アナルは最高だよおつ♡ んうつ♡ 男の子なのにつ♡」

「こんなメス穴持ってるなんてえつ♡ あつ♡ ああつ♡ 鳴いてる声えつ♡ すっごく可愛い♡」

「もつと、喘いでつ♡ んんつ♡ アナル締め付けながらつ♡ メス声で、鳴いて♡ んんあつ♡」

「んんつ♡ いいつ♡ いいよおつ♡ もつと、もつとおつ♡ んんうつ♡ キミのエッチな声、聞かせてつ♡」

「はあはあ、んんうつ♡ アナル、ほじられながらつ、じゅぼじゅぼされながらあつ♡」「あんあん♡ 鳴くの、気持ちいいねえつ♡ はあはあ、んつ♡ ああつ♡ すっごく、締まるよおつ♡」

「最初も気持ちよかつたけどおつ……んんつ♡ 今は、もつと素敵な穴になつたねえ♡」「おちんちんイジられなくても、勝手にピュッピュつて出ちやうくらいつ♡ 気持ちいいんだよね？」

「ふふふつ♡ いっぱい感じてくれるのつ♡ 嬉しいなあつ♡ 犯しがいがあるよおつ♡」

「司祭君は♡ 犯されるのが♡ 大好きだからねつ♡ んんつ♡ しょうがないよね♡ あんつ♡」

「はあはあ……気持ちいいねえ♡ あたしのふたなりチンポ♡ 根本まで簡単に咥えこんじやうなんだもんつ♡」

「司祭君の穴あ♡ ホントに最高だよお♡ んんつ♡ ああつ♡ はあ、はあ、はあつ、んあつ……んくつ♡」

「いっぱい感じちゃった?♡ 気持ちいいよね♡ よかつたねえ♡ んうつ♡」
「入れただけで、そんなに可愛く鳴いてくれるなら、もつとおちんぽでジュボジュボしてあげないとお……んんうつ♡」

「ああつ♡ アナルうつ♡ すごいよおつ♡ くつ、ううんつ♡ すつゞく締まるうつ♡」

「動くたびつ、おちんぽが根本から、搾り上げられるのおつ♡ これつ、好きいつ♡」「司祭君のアナル好きいつ♡ はあはあつ♡ 他の人よりも、何倍も気持ちいいのおつ♡ んんんうつ♡」

「はあはあ、はあはあ、んっくつ♡ ああ?……ううつ、んつ♡ んつ、んんうつ♡」

「……あたしだけのオナホ穴あ♡ いっぱい犯してあげるねえ♡ はあはあつ、んんつからつ♡」

「あうつ♡ んんつ♡ みんなにも聞いてもらおうよ♡」

「司祭君が乱れまくって、メス声いっぱい出しながら感じてる姿♡」

「犯されて、気持ちよくなつてるところ、見てもらお♡」

「んんんうつ♡ あつあつ♡ んうつ♡ ははつ♡ 司祭くんつ♡ すつゞいよおつ♡ アナルがすつごく締まつてるつ♡」

「んつ♡ はあはあ……くうつ♡ 見られてると思ったら、もつと興奮してきちゃつたのかな? んあつ♡」

「さすがだねえ♡ あははっ♡ んっ♡ いいよっ♡ ホントにいいっ♡ んんうっ♡」「オナホ穴あ♡ あたしのおちんぽを美味しそうに咥えて、搾り上げてくれるのおっ♡ 最高お♡」

「んぐうつ♡ ああつ♡ 司祭君つ♡ 今、幸せでしょ？」

「気持ちよくなることだけしか考えないで♡ ただ腰を振り続けるオナホ穴あ♡」

「ずーっと気持ちいいことだけしていようねえ♡ あうんっ♡ あたしもキミのこと、離す気ないからあ♡」

「アナルをこれからもずっと♡ 犯して、犯して、犯して……んふっ♡ 犯し尽くしてあげるねえ♡」

「んあつ♡ ああつ♡ ふふっ♡ あははっ♡ ははははっ♡」

「あたしと一緒にい♡ いっぱいみんなに祝福してあげようねえ♡ はははっ♡」

「んうつ♡ あつ♡ あんっ♡ はあつ、はあつ、んんつ、んうつ……んぐっ♡ あつ、ああつ、あうつ♡」

「あうんっ♡ 締め付けっ、またっ、キツくなってきたあ……んんっ♡ はあはあつ、くつ、ううつ♡」

「んあつ♡ 司祭君のつ、おちんちん♡ もう限界、なのかなあ？ んんっ♡ はあはあつ、うあ……♡」

「じゃーあー……たくさん中出ししてあげるからあ♡ みんなに、繋がつてるとこう、見られながらビュツビュツでしようねえ♡」

「いっぱい出していいよ♡ あうんっ♡ はあはあ、んんっ♡ 人間じやできないくらいの精子出してみよう♡」

「みんなもそっちの方が喜ぶと思うんだあ♡ ちゅっ♡ なにより……」

あたしが、嬉しいし
ふふつ

「ほらっ、お股開いてっ♡ みんなに恥ずかしい格好みられながらっ♡ イくのっ♡」

くつ
んぬうつ
んぬうつ
——
んぬうつ
縮まるよおつ
んぐうつ
このオナホ穴あつ
ホントすごいいつ

「あたしのおちんぽ

らあつ♥
「お腹パンパンになるまでっ♥ 出してあげるよおつ♥ あつ、んつ、んんつ、んうつ、
んぐうつ♥」

—
—

司祭君つ
心
気持ちいいつ
心
気持ちいいのつ
心
止まらないつ
心
ひぐつ
心

「んんっ！ あっ！ ああっ！ イくっ、イクうっ！！ みんなに見られながらっ♥

「あつあつあつ、ん
イーチやうよおニ^心」

んうつ♡ はあはあつ、うつ、ううつ！」

「んんっ！ いくつ、いつちゃつ、ううんっ！ いつ、べうつー・♡♡」

「んんんんっ！ んんああああっ！」

「ああっ♡ すゞいっ♡ すゞよおつ！♡ あつ……んつ……はあつはあつはあつ、
くっ♡ ううっ♡」

「司祭君の精液い♡ 噴水みたいに噴き出してるうつ♡ あはあつ♡ んんつ♡ はあつ、
はあつ、はあ……んつ♡」

「ふふふつ♡ 人間だったら、一発で死んじやう量なんじやない?♡」

「はあはあ、はあ……ふう……♡」

「死んじやうくらいの射精の快感……どうだつたあ?♡ 気持ちよすぎて、何も考えられ
ないかな?♡ ふふふつ♡」

「司祭君が……♡ あたしと一緒に堕ちてくれるって……♡ 言つてくれたから、体験で

きた快感、だよお♡」

「ちゅつ♡ ちゅつちゅつ♡」

「こんなの、経験したらあ♡ もう、他のこととか、どうでもいいよねえ♡」

「ふふつ♡ ふふふふつ♡」

「それでいいの♡ 司祭君はあ、おちんちんで気持ちよくなることだけ、考えてればいい
んだからあ♡」

「あたしのオナホ穴として……♡ ずっと一緒に居てあげるね♡」

「ああ……そうそう♡」

「今この司祭君には、もうどうでもいいことかもしれないけどお……♡」

「キミが魔物に堕ちちゃつたから、張つてた結界が消えてみんな入つてくるね」

「そしたら、もつといつぱい、いろんなおちんちんを楽しもう?♡ ふふふつ♡」

「キミはどんな声で鳴いてくれるかなあ♡ 想像しただけで……んんつ♡ ワクワクし
ちやうねえ♡」

「いっぱい中に出されてえ♡ 司祭君もいっぱい精液出しちゃうの♡」

「今よりもすっごい量、出ちやうかもねえ♡ ふふふつ♡」

「みんなにキミの祝福を射精してあげて……お返しに射精してもらって、体にいっぱい
ぶつかかれちゃお？」

「ぐつちよぐちよの快樂を楽しもうね…… 司祭君……」

「これからも、気持ちよくなることだけ考えて生きていこうねえ」

「あたしのオナホ穴……」

「ああ……これからのこと、楽しみだねえ」

「ずっと、犯してあげるからね……ちゅっ」